



研修紹介 リアルな課題提示で学習意欲向上

中原教諭は、「子どもの学習意欲を高める授業とはどのような授業か？」について、研修を通して自身の授業を何度も振り返る中で、「自分の言葉」での話し合いになっていないという問題に着目し、その解決に向けた授業を実践しました。実践後、生徒の学習意欲に変容が見られました。

【中原教諭が感じていた授業実践上の問題】


生徒がグループ等で話し合う際、教科書の語句をそのまま使って説明したり、自分の意見に明確な根拠がなく話し合ったりするなど、話し合いが表面的で、例を挙げながら説明するなど「自分の言葉」での話し合いになっていない。

【中原教諭が考えた解決の方向性】

生徒がイメージしやすく、課題に真に向き合える場面設定（^{*}リアルな課題提示）をすることで、「自分の言葉」での話し合いができるようになるのではないかと考えた。

^{*}リアルな課題：社会と学習を関連づけることで、「課題を自分ごととしてとらえる」「当事者として考えられる」課題

【課題解決に向けた授業実践と生徒Aの学習意欲の変容】

時	内容 『第2学年 地理的分野 中四国地方』	生徒Aの学習意欲の変容
1	<p>●単元を通して、生徒が課題に真に向き合える場面の設定(リアルな課題の提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> 中四国地方の自然・人口・産業の概要 安芸太田町の現状 <p>「どうしたら、安芸太田町の人口減少は食い止められるのだろうか？」</p>  <p>安芸太田町人口ビジョン (安芸太田町作成資料より)</p>	<p>授業中の生徒Aは何に対しても自信がもてず、話は聞いているものの、グループでの話し合い場面で、発言することはほとんどない。</p> <p>＜第3時 生徒の変容が見えはじめる＞ 交通網が発展しても人口が増えないという事象を知り、「じゃあ、どうすればいいん。えらい人を連れてきて、考えてもらうしかないじゃん。」と、本単元の課題に関わる内容について、隣の生徒Bに話す姿が見られた。</p> <p>＜第4時 安芸太田町の活性化案の作成で＞</p>
2	<p>●交通網の発展と経済効果</p> <ul style="list-style-type: none"> 瀬戸内側の都市の特色 中四国地方の交通網の発展と経済 → 交通が発展すると経済も発展する 	<p>【生徒A】安芸太田町の一番の魅力はやはり豊かな自然。自然散策で観光客を増やす作戦。</p> <p>【中原】もう少し具体的には？どんな客？何歳くらい？団体？個人？自然散策で何してもらう？日帰り？一人いくら使ってもらう？</p>
3	<p>●交通網の発展と人口推移</p> <ul style="list-style-type: none"> 山間地域や離島の過疎化 中四国地方の交通網の発展と人口 → 交通発展と人口減少(スロ現象) 	<p>【生徒A】一人あたりは数千円程度かな。じゃあ、何人来てもらえばいいのかな。季節も関係しそう。店もいるし、ガイドもいる・・・</p> <p>【生徒B】店は、この資料から空き家が使えそう。ガイドはボランティアを募るしかないかな。</p>
4	<p>●課題解決</p> <p>「どうしたら、安芸太田町の人口減少は、食い止められるのだろうか？安芸太田町の活性化案を考えよう。」</p>	<p>【生徒A】空き家を利用した自然散策センターを作る。資料にある「町の特産品」をそこで売る。宿泊もできるようにしたら観光客も集まり、店の人・ボランティアの人も集まり、人口増が期待できる。</p>
5	<p>●まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 中四国地方の特徴 中四国地方の都市と農村の問題と変化 	<p>その後、生徒Aの案を学級全体で紹介すると、休憩時間もさらに自分の案を具体的にしようと、生徒Bと一緒に資料を探したり、収支の計算をしたりしていた。そして、一度提出したプリントを「もう一度修正したいから。」と取りに来るほど意欲的で、実際に自宅に持ち帰り、ツアーやイベント案を追加した自分なりの活性化案を提出した。</p>

●中原教諭より
今回、生徒の学習意欲を高めるために、リアルな課題に着目して、授業実践しました。
生徒Aは、これまでの社会科授業では、ほとんど発言していませんでしたが、この単元では生徒Bに相談したり、グループ内で自分の意見を言ったりするなど、意欲的な姿が見られました。
今年、3年生の授業では、比較的難解で抽象度の高い内容も多いですが、研修で学んだことを生かし、新聞を活用したり、現実の問題を事例として取り上げたりと、リアルな場면을イメージして学習できるよう工夫しています。生徒は、少しずつ、自分の意見をもととする姿勢が見られるようになっていきます。

●校長先生より
中原教諭は、授業づくりの視点が広がり、生徒の学習意欲や思考に添った、生徒目線の授業づくりを行おうとしています。今年度は、教務主任・研究主任として、本校全体の授業改善のリーダーとして、日々頑張っており組んでいます。

●担当指導主事より
新学習指導要領では、主体的な学びについて「生徒が学習課題を把握し、その解決への見通しをもつことが必要」「単元を通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場を設定し、生徒の表現を促すようにすることが重要」と示されています。今回の中原教諭の実践は、以下の4点において示唆的な内容でした。
○課題が単元を通じた学習の動機付けとなっていること
○生徒が単元を通して学習の見通しをもっていること
○生徒が自分ごととして学習課題を把握できていること
○生徒が学んだことを表現できる場があること
これらのことが、生徒の意欲的な学習を喚起したのではないかと考えられます。